

「歴史・交流・協働を考える」

現在、沼田市では「交流事業」や「市民協働」に取り組んでいます。また、来年初には、全国育樹祭の開催を控え準備作業が着々と進められています。今回、特別座談会として、各方面で活躍中の皆さんにお集まりいただき、お話を伺いました。

活動は、地域と共に

星野 ■今回は、いろいろな分野でご活躍中の皆さんにお集まりいただき、わたしが座長になって座談会を進めさせていただきます。普段どおりに、かしこまらずにお願います。まずは、自己紹介をしながら活動の様子などを聞かせてください。

金井 ■生まれは、沼須人形のあゝ沼須町で、活動は、主に利根沼田の歴史民俗の研究に関わっています。沼須人形は、同地域に二百年ほど前から伝わる伝統芸能で、当時の旅芸人がそこで興行をした際に置いていったという由来があります。わたしはその九代目座長をしています。近年は、ドイツ公演や国民文化祭にも参加するなど、対外的な活動も行いながら、この伝統芸

能を後世に伝えていきたいと考えています。また、今は城下町を築く土台となった城堀川の水が大変汚れています。この流れを何とか清流に復活できないかということ、四年ほど前には「沼田の水を考える会」を立ち上げ、環境や美化の問題にも取り組んでいます。

丸山 ■わたしたちの主な活動は、利根町根利にある林野庁林業機械化センターに展示されている蒸気機関車などの修復作業です。わたしは、金属加工の仕事しながら、乗って楽しめる鉄道模型などを製作・販売していますが、同センターを訪問したときに、そこに展示されている日本の林業の近代化を支えた機関車たちがとても傷んでいるのを見てこれは何とかしたいと、そこから活動が始まりました。その後、地元の人たちや仲

間たちと話し合いを重ね、最終的には四十人以上の皆さんに集まっていただくことができました。まず、四年前にアメリカから来たポールドウインという蒸気機関車を修復し、一昨年に協三工業製ディーゼル機関車、昨年は、ホイットカム社製機関車を修復しました。このような自分たちの活動を通じて、森林の原風景を再現できたらと思っています。できれば、来年行われる全国育樹祭で、修復した車両を披露したいと考えています。

田中(志) ■沼田で仕事をするようになって十年以上になります。が、仕事を進めていくと認知症の人が年々増えていること、また、その課題も非常に大きいということが分かってきました。最近では、老老世帯や独居世帯が多くなりなかなか通院できない人が増えているので、わたしが

往診に行く体制が作りたいたと昨年の十一月にクリニックをオープンしました。家で老いていくこと、病院ではなくて家で最後を迎えられる、そんな地域づくりを十年くらいの間にしたいと思っています。また、現在、認知症予防でもある回想法というものに取り組んでいます。昔のことや道具、場所などを思い出すことで脳を活性化して、物忘れを予防する。たとえ物忘れがあっても、その時間は昔のことを楽しく思い返すことができます。そんな場所を作りたいと思っています。今年四月にオープンした特別養護老人ホームでは、施設の一角を古い小学校のような形にして、昔のものを展示したり、触ったりできるようにしています。子どもたちからお年寄りまで、世代や障害を超えて、いろいろな人たちが集まる場所を提供したいですね。もう一つは、平成十七年に市が立ち上げた認知症などの徘徊者を探す地域ネットワークへのお手伝いです。いなくなった人を警察をはじめ地域のみんながかかわって探す。この取り組みはモデル自治体として全国的にも注目され、見学も多いところです。

ところで、次は、テーマを歴史に絞って、進めていきたいと思えます。では、なぜ歴史なのかということなのですが、今、お話を聞いている中で、皆さんの活動がすべてそれぞれの歴史の上に成り立っていると思うんですね。郷土の歴史の掘り下げと活用が大事になってくるのかなと。同時に、歴史や文化のネットワーク化、こういうことが重要だと考えますが。



星野 已喜雄
(ほしの・みきお)

沼田市長。沼田市議2期の後、県議4期。平成14年5月沼田市長に就任。現在2期目。群馬林政推進協議会長。県園芸協会会長。県へき地教育振興会長。上原町。

石田 ■わたしは、池田地区で観光農業を営んでいます。六月中旬のサクランボに始まり十二月まで、年間を通して、池田地区に来れば必ず何かの果物があるということ、約百人の仲間が集まってフルーツランドいけだというグループを作り、いろいろな果樹を生産しています。一

人一人にしてみるとたいしたこととができなくても、百人も集まるといろいろな考えがあります。が、大きな宣伝もできるし、より多くの要望にも応えることができる。みんなを盛り上げようということをやっています。また、仲間をあげて防犯体制への取り組みも行っていきます。作物の盗難予防はもちろんですが、果樹を作っているというところは、自宅から近いエリアで仕事をしている可能性が高い。子どもたちの通学するときなど、一声掛けるというようなことを共通の意識を持って行っています。自主パトロールですね。

小林 ■高平公益社は、明治四十年に発足した団体で、以前は白沢用水の水源の管理をしていました。現在は、主に地域の森林資源の維持・管理などを行っています。また、将来、森林経営が大変になるとの考えから、先代が、昭和四十七年にゴルフ場の誘致にも成功しています。ただ、ここ数年、わたしたちの団体も若い世代の人たちや後継者が、少しずつ山の仕事から離れてしまっているという現状があります。今、沼田市と新宿区との交流事業が展開されています

田中(恵) ■東部商工会女性部の活動は、そのほとんどがボランティアです。二年前に白沢町と利根町の商工会とが合併して東部商工会になりました。最初は、範囲が広すぎて連携がなかなかうまくいかなかったところがありました。でも、今年あたりからは、みんなの足並みがそろってくるようになってきていると感じています。主な活動は、環境美化運動を始め、お祭りや各種イベントなどで赤飯やうどんを作ったり、出店したり、運営スタッフの食事作りなどを行っています。また、収穫感謝祭や文化祭へ参加をしたり、バザーで得た収益を社会福祉協議会に寄付したりと、地域の人たちと密着した活動を目標に取り組んでいます。



金井 竹徳
(かない・たけのり)

沼須人形芝居あけほの座9代目座長。講談社写真部カメラマンを経て郷土史や文化財などの研究に携わる。沼田市文化財調査委員。沼田の水を考える会事務局長。東原新町。

氏、そして真田氏は領地を広げていったわけなんです。**星野** ■今、金井さんのお話の中で、沼田の歴史が白沢町・利根町のそれと変わって深い関係があるとありました。今回、NHK大河ドラマで「天地人」を放送していますが、本市でもこれに関連して真田用水のことや真田

